

基礎科目

授業科目名	右上表示
英語 I A (テキスト)	基礎-外1(1)
英語 I A (前期土曜スクーリング)	基礎-外1(2)
英語 I B (テキスト)	基礎-外2(1)
英語 I B (後期土曜スクーリング)	基礎-外2(2)
英語 II (テキスト)	基礎-外3(1)
英語 II (夏期スクーリング)	基礎-外3(2)
英語 II (前期土曜スクーリング)	基礎-外3(3)
英語 II (後期土曜スクーリング)	基礎-外3(4)
英語コミュニケーション (夏期スクーリング)	基礎-外4(1)
英語コミュニケーション (前期土曜スクーリング)	基礎-外4(2)
英語コミュニケーション (後期土曜スクーリング)	基礎-外4(3)
ドイツ語	基礎-外5
ドイツ語会話	基礎-外6
フランス語	基礎-外7
フランス語会話	基礎-外8
中国語	基礎-外9
中国語会話	基礎-外10
韓国語	基礎-外11
韓国語会話	基礎-外12
情報処理演習 (夏期スクーリング)	基礎-情1(1)
情報処理演習 (前期土曜スクーリング)	基礎-情1(2)
情報科学	基礎-情2
身体運動実習	基礎-身1
身体運動演習	基礎-身2
身体運動論	基礎-身3

英語 I A (テキスト)

担当教員：土屋 智子・佐藤 彩・杉崎 美生
穴本 玲奈・越後谷明恵・小池 久恵

1年次～ 必修2単位

テキスト科目／2026年度

概要

「英語 I A」では、平易な英語を理解できる英語の基本的な力を養います。外国語として英語を学ぶことは、誰にとっても楽しく易しいものとはかぎりません。英語が苦手な場合でも、それはもしかすると、これまで相性の良くなかった科目がたまたま英語だったということかもしれません。しかし現代社会において英語の基礎を勉強しておくことは、実生活において必要であるばかりでなく、時として楽しみやよろこびとも感じ取れるものです。

授業の方法

【印刷教材等】

『学習の手引』を参照しながら、テキストの5文型、不定詞と動名詞、分詞、名詞、代名詞、形容詞、冠詞、副詞、前置詞についての10Unitの要点を理解したうえで、レポート課題に解答します。また学習した箇所の英語力が身についているかを試すための科目修了試験を受け、それに合格したら単位がとれます。

学位授与方針との関係

大学DP2 大学DP4

到達目標

英語の基礎的学力を身につけるため、具体的には、必要な文法事項—5文型、不定詞と動名詞、分詞、名詞、代名詞、形容詞、冠詞、副詞、前置詞—を理解し、使えるようにします。

学習の進め方

10Unitに分けて学習します。ここで扱うテキストは、英語にしばらく触れていなかった人も、英語を苦手と思い込んでいた人も、段階的に学習できるように組まれています。これらをマスターすれば、皆さんは英語会話の基本ができたことになります。次のようなステップで自習してみてください。

1. はじめに、テキストの各Unitの2ページ目にあるGrammar Points（文法の要点）をしっかり学習しましょう。『学習の手引』をあわせて読んでください。
2. 「文法の要点」がだいたい理解できたところで、次に各Unitの1ページ目にあるDialog（対話）をCDで聞いてみてください。Notesに出ている単語の意味を参考にして対話の意味を考えましょう。分からなかったら『学習の手引』を見てかまいません。「文法の要点」は最初は簡単に分かるものではないかもしれませんが、何度も何度も繰り返し読んでいくうちに、少しずつ分かってきます。
3. 次にComprehension Questionsをやってみてください。これは対話の意味が分かったかどうか確かめるものです。テキストに答えを書きこみましょう。確かめるために『学習の手引』を見てください。
4. 次にレポート課題です。レポート課題はExercisesの類似問題が出されます。このUnitで学んだことを復習して考えてみましょう。まず自分でExercisesの答えをテキストに書きこんでから、『学習の手引』で確認し、まちがっているところはなぜかを考えましょう。（注：Unit 1では5文型を学習します。5文型は英語の骨格にあたります。しっかり学習しましょう。）
*レポート課題の提出では、ワープロ使用不可です。必ず筆写してください。
5. Extra 1 Using a DictionaryとExtra 2 Word Formationは余力のある方のためのものです。レポート課題のときに提出してもかまいませんが、必須ではありません。
6. 分からないことがあったら、質問票で質問してください。
7. 科目修了試験を受けるにあたってはテキスト範囲全体について十分に復習をしてください。

内容

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1. Verbs 1 | 9. Articles |
| 2. Verbs 2 | 10. Adverbs |
| 3. Verbs 3 (1) Present Participle | 11. Prepositions (1) Grammar |
| 4. Verbs 3 (2) Past Participle | 12. Prepositions (2) Exercises |
| 5. Nouns 1 | 13. Preposition 2 |
| 6. Nouns 2 | 14. Extra 2 Word Formation |
| 7. Extra 1 Using a Dictionary | 15. まとめと復習 |
| 8. Adjectives | |

テキスト・参考書

①**テキスト** 新しくはじめる大学英語演習―Basic College English Seminar (CD付) 竹前 文夫 南雲堂 2007、学習の手引 [テキスト範囲] Unit1～10。ただしReading 部分は除き、Exercise はLevel 1のみとします。また、Level 1の中でもReading に関するものは除きます。

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②**参考書** 指定なし

成績評価

①レポート

全体を100として、課題の理解、「ねらい」「アドバイス」の活用、学生自身の学習成果、レポートとしての完成度などを総合的に評価します。

②**科目修了試験** 全体を100点満点とし、テキストの各ユニットから出題します。文章の読解や和文英訳などを通して、文法的に正しい冠詞、名詞の形、動詞の形、語順など、基本的な英語力が身についているかどうかを確認します。配点は科目修了試験に明記します。

その他

[学生に薦める英和辞典]

研究社『ライトハウス英和辞典』第7版

研究社『リーダーズ英和中辞典』第3版

詳しくは『学習の手引』英語学習のための基礎知識 第3章英和辞書の使い方 (p. xxvi-xxvii) を参照してください。

英語 I A (前期土曜スクーリング)

担当教員：越後谷 明恵

1年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

スクーリングでは教室で教員と学習者が共に場を共有できるため、英語学習しながらコミュニケーションの側面を持たせることができます。教科書の問題を通して基礎的な文法を練習するほか、教科書にある導入の会話を用いて教室でロールプレーをして英語で話す練習をします。正しい発音、リズム、イントネーションを学び、英語で話す感覚を養います。また、文法を学んで練習問題をすることで、自分で英文を書き、話す練習を行います。さらに、実践的コミュニケーション能力に向けた発展的な指導も行います。

授業の方法

【面接】

学位授与方針との関係

大学DP2 大学DP4

到達目標

英語学習において読む力、書く力を向上させる。英語でプレゼンテーションができる力を身につける。基礎的な文法理解のほかにコミュニケーション能力の向上を目標とする。

授業計画

「英語 I A」では Unit 1～10 を範囲とし、Reading、Exercise の Level2 は除きます。教科書を授業前に予習し、授業に臨みましょう。小テストのほか、学んだ文法を用いた演習を行います。

第1回	第4回
1. オリエンテーション (授業についての説明)	9. Unit 4～6 復習+演習
2. Unit 1 Verbs 1	10. Unit 7 Articles
3. Unit 2 Verbs 2	11. Unit 8 Adverbs
第2回	第5回
4. Unit 3 Verbs 3	12. Unit 9 Prepositions 1
5. Unit 1～3 復習+演習	13. Unit 10 Prepositions 2
6. Unit 4 Nouns 1	第6回
第3回	14. Unit 7～10 復習+演習
7. Unit 5 Nouns 2	15. Extra1～2
8. Unit 6 Adjectives	

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

授業計画に基づいて、授業前に予習を必ず行いましょう。範囲内の問題文に知らない単語が出てきた場合、発音や語の意味を調べることと、各Unitの要点は確認しておきましょう。また、小テストや復習の時間も取りますので、授業後の復習も行いましょう。
予習：各自の調べる量によるため30分～1時間を基準とする 復習：問題の見直し及び演習準備1～2時間

②使用教科書

新しくはじめる大学英语演習—Basic College English Seminar (CD付) 南雲堂 2007、学習の手引

③参考書 特になし

④準備するもの 英和辞典(電子辞書可。スマホアプリの場合はオフラインでも使用できるものとする)

⑤成績評価 授業参加・発表、授業内小テスト、最終日に全体の内容についての筆記試験を行い、総合的に評価

⑥学生へのメッセージ

面接授業で行います。予習復習をしっかり行い、積極的な参加をお願いします。

⑦追試験 対象科目

英語 I B (テキスト)

担当教員：土屋 智子・佐藤 彩・杉崎 美生
穴本 玲奈・越後谷明恵・小池 久恵

1年次～ 必修2単位

テキスト科目／2026年度

概要

「英語 I B」では、「英語 I A」に続いて、平易な英語を理解できる英語の基本的な力をさらに養います。外国語として英語を学ぶことは、誰にとっても楽しく易しいものとはかぎりません。英語が苦手な場合でも、それはもしかすると、これまで相性の良くなかった科目がたまたま英語だったということかもしれません。しかし現代社会において英語の基礎を勉強しておくことは、実生活において必要であるばかりでなく、時として楽しみやよろこびとも感じ取れるものです。

授業の方法

【印刷教材等】

『学習の手引』を参照しながらテキストの助動詞、句動詞、接続詞、比較、時制、完了形と未来、能動態と受動態、条件と否定についての10個のUnitの要点を理解し、そのうえでレポート課題に解答し、それを提出します。また学習した箇所の英語力が身についているかを試すための科目修了試験を受け、それに合格したら単位がとれます。

学位授与方針との関係

大学DP2 大学DP4

到達目標

「英語 I A」につづく文法事項を10Unitに分けて学習します。その内容は、助動詞、句動詞、接続詞、比較、時制、完了形と未来、能動態と受動態、条件と否定です。これらをマスターすれば、皆さんは英語の基本ができたこととなります。

学習の進め方

10Unitに分けて学習します。ここで扱うテキストは、英語にしばらく触れていなかった人も、英語を苦手と思い込んでいた人も、段階的に学習できるように組まれています。これらをマスターすれば、皆さんは英語会話の基本ができたこととなります。次のようなステップで自習してみてください。

1. はじめに、テキストの各Unitの2ページ目にあるGrammar Points（文法の要点）をしっかりと学習しましょう。『学習の手引』をあわせて読んでください。
2. 「文法の要点」がだいたい理解できたところで、次に各Unitの1ページ目にあるDialog（対話）をCDで聞いてみてください。Notesに出ている単語の意味を参考にして対話の意味を考えましょう。分からなかったら『学習の手引』を見てかまいません。「文法の要点」は最初は簡単に分かるものではないかもしれませんが、何度も何度も繰り返し読むうちに、少しずつ分かってきます。
3. 次にComprehension Questionsをやってみてください。これは対話の意味が分かったかどうか確かめるものです。テキストに答えを書きこみましょう。確かめるために『学習の手引』を見てください。
4. 次にレポート課題です。レポート課題はExercisesの類似問題が出されます。このUnitで学んだことを復習して考えてみましょう。まず自分でExercisesの答えをテキストに書きこんでから、『学習の手引』で確認し、まちがっているところはなぜかを考えましょう。
*レポート課題の提出では、ワープロ使用不可です。必ず筆写してください。
5. Extra 3 Paragraphsは余力のある方のためのものです。レポート課題のときに提出してもかまいませんが、必須ではありません。
6. 分からないことがあったら、質問票で質問してください。
7. 科目修了試験を受けるにあたってはテキスト範囲全体について十分に復習をしてください。

内容

- | | |
|------------------------------|--|
| 1. Auxiliary Verbs | 8. Tenses 1 |
| 2. Phrasal Verbs | 9. Present Perfect & Future (1) Grammar |
| 3. Conjunctions 1 | 10. Present Perfect & Future (2) Exercises |
| 4. Conjunctions 2 | 11. Active Voice & Passive Voice (1) Grammar |
| 5. Comparisons (1) Grammar | 12. Active Voice & Passive Voice (2) Exercises |
| 6. Comparisons (2) Exercises | 13. Tenses 2 |
| 7. Extra 3 Paragraphs | 14. Conditionals & Subjunctives |
| | 15. まとめと復習 |

テキスト・参考書

①テキスト

新しくはじめる大学英語演習—Basic College English Seminar (CD付) 竹前 文夫 南雲堂 2007、学習の手引

[テキスト範囲] Unit 11-20。ただしReading 部分は除き、Exercise はLevel 1のみとします。また、Level 1の中でもReading に関するものは除きます。

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 指定なし

成績評価

①レポート 全体を100として、課題の理解、「ねらい」「アドバイス」の活用、学生自身の学習成果、レポートとしての完成度などを総合的に評価します。

②科目修了試験 全体を100点満点とし、テキストの各ユニットから出題します。文章の読解や和文英訳などを通して、文法的に正しい冠詞、名詞の形、動詞の形、語順など、基本的な英語力が身についているかどうかを確認します。配点は科目修了試験に明記します。

その他 [学生に薦める英和辞典]

研究社『ライトハウス英和辞典』第7版、同『リーダーズ英和中辞典』第3版

詳しくは『学習の手引』英語学習のための基礎知識 第3章 英和辞書の使い方 (p. xxvi-xxvii) を参照してください。

英語 I B (後期土曜スクーリング)

担当教員：小森 由里

1 年次～ 必修2 単位

スクーリング科目／2026 年度

[概要]

スクーリングでは、教室で先生と学習者が場を共有できるため、英語学習にコミュニケーションの側面を持たせることができます。教科書の文法項目を学習し練習問題によって文法項目を定着させた後に、その項目を用いて実際に学習者が遭遇するであろう英語運用場面を想定したロールプレーを行います。正しい発音、リズム、イントネーションを学び、英語で話す感覚を養います。また、幅広い例文を提示し、英語による実践的コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力育成のための発展的な指導も行います。

[授業の方法]

【面接】

[学位授与方針との関係]

大学DP2 大学DP4

[到達目標]

- 英語の基本的な文法項目を学習すること
- 英語による実践的コミュニケーション能力を身に着けること
- 英語によるプレゼンテーション能力を育成すること

[授業計画]

「英語 I B」では、教科書のUnit11～20を学習します。但し、Reading と Exercises Level 2を除きます。さらに、レストランの予約、電話のメッセージの伝達、道案内などを英語で行うロールプレーや聞き取り練習をし、英語を使ったコミュニケーションの学習およびプレゼンテーションの練習も行います。

第1日目

1. オリエンテーション、「英語 I A」の復習
2. Unit 11 Auxiliary Verbs

第2日目

3. Unit 12 Phrasal Verbs
4. Unit 13 Conjunctions 1
5. Unit 11-13 の復習、ロールプレー発表、聞き取り練習

第3日目

6. Unit 14 Conjunctions 2
7. Unit 15 Comparisons

第4日目

8. Unit 16 Tenses 1
9. Unit 17 Present Perfect & Future

10. Unit 14-17 の復習、ロールプレー発表、聞き取り練習

第5日目

11. Unit 18 Active Voice & Passive Voice

12. Unit 19 Tenses 2

第6日目

13. Unit 20 Conditionals & Subjunctives
14. Unit 18-20 の復習、ロールプレー発表、聞き取り練習
15. Extra 3-4 Paragraphs, Pronunciation and Stress

受講にあたって

[準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間]

- ① 受講前に5時間ほどの準備学習を行うことが必要

「英語 I B」では、「英語 I A」で学習したことが身につけていることを前提に授業を進めます。「英語 I B」を受講する前に、「英語 I A」で学んだことを復習してください。『学習の手引』の「第1章英語の基本ルール」と「第2章文法の要点補足説明」を十分に理解した上で授業に臨んでください。

- ② 1回の授業につき最低1時間の授業外学習が必要

毎回、授業のはじめに復習テストをします。教科書のGrammar Points と Exercises を復習し、授業で配付した文法のハンドアウトも参照してテストに備えてください。また、次の授業の準備として、教科書のGrammar Points をよく読み、Exercises を予習してください。

[使用教科書]

- 『新しくはじめる大学英語演習—Basic College English Seminar (CD 付)』竹前文夫・山岸信義・菊池圭子・笹島茂・田中レベッカ 著 南雲堂 2007
- 『学習の手引』小森由里 編 南雲堂 2014

- 文法項目やロールプレーに関するハンドアウト（授業時に随時配付）

[参考書] 指定なし

[成績評価] 毎回行う復習テスト、平常点、最終試験(ロールプレー発表)を総合的に評価します。

[準備するもの] 英和辞典（電子辞書も可）

[追試験] 対象外科目

[学生へのメッセージ]

辞書を新しく買い替える必要はありませんが、英和辞書や電子辞書の購入を考えている方は、『学習の手引』「英語学習のための基礎知識 第3章英和辞書の使い方」にお薦めの辞書が複数記されていますので、それを参照してください。

英語Ⅱ (テキスト)

担当教員：小林かおり・越後谷明恵・田中みんね
中村美帆子・平尾 吉直・馬上紗矢香

2年次～ 必修2単位

テキスト科目／2026年度

概要

「英語Ⅱ」は、「英語ⅠA・ⅠB」で学習した基礎を土台にして、少し長めの英文を読み解くための読解力を養うことを目的としています。「英語ⅠA・ⅠB」で学習した総合的な文法項目の中から特に重要なものを取り上げて集中的に学習することにより、いろいろな種類の英文にも対応できる基礎力を養います。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP2 大学DP4

到達目標

文法事項の中で、5文型、不定詞と動名詞、分詞、冠詞、前置詞、助動詞、接続詞、比較、時制、完了形と未来形の理解を目指します。

学習の進め方

1. テキストの範囲は、Unit 1、2、3、7、9、11、13、15、16、17で、主にReadingとLevel 2を学習します。
2. はじめに、テキストの各Unitの2ページ目にあるGrammar Points（文法の要点）をしっかりと読んで、学習しましょう。すでに「英語Ⅰ」をとった方も、もう一度、この部分を復習してください。『学習の手引』をあわせて読んでください。
3. 「文法の要点」を確実に理解できているかどうか、復習します。
4. 各Unitの3ページ目にあるReadingの箇所をCDで聞いてください。Notesに出ている単語の意味を参考にして、文章全体の意味を考えましょう。分からなければ、『学習の手引』を見てもかまいません。
5. Comprehension Questionsをやってみましょう。これは文章の意味が分かったかどうか確かめるものです。テキストに答えを書きこみましょう。確かめるために『学習の手引』を見てください。
6. Exercisesの答えをテキストに書きこんでから、『学習の手引』で確認し、間違ったところは何度も復習しましょう。
7. レポート課題に答えます。レポート課題には、Exercisesの類似問題が出されています。各Unitで学んだことを再度確認しながら答えましょう。
8. 分からないことがあれば、質問票を使って質問してください。
9. 科目修了試験に向けて、語彙、文法事項を再確認することを心がけ、十分に復習しましょう。

内容

Unit 1 述語動詞

Unit 2 準動詞（不定詞・動名詞）①

Unit 2 準動詞（不定詞・動名詞）②

Unit 3 準動詞（現在分詞・過去分詞）①

Unit 3 準動詞（現在分詞・過去分詞）②

Unit 7 冠詞

Unit 9 前置詞

Unit 11 助動詞①

Unit 11 助動詞②

Unit 13 接続詞1

Unit 15 比較の用法①

Unit 15 比較の用法②

Unit 16 時制1

Unit 17 完了形と未来①

Unit 17 完了形と未来②

テキスト・参考書

①テキスト 新しくはじめる大学英語演習 竹前文夫他 南雲堂 2007、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 特になし

成績評価

①レポート 全体を100として、課題の理解80%、学生自身の学習成果20%として評価します。

②科目修了試験 全体を100点満点として、詳しい配点は試験問題に明記します。

その他

[学生に薦める英和辞典]

詳しくは『学習の手引』英語学習のための基礎知識 第3章英和辞書の使い方 (p. xxvi-xxvii) を参照してください。

[その他]

一つ一つの文法事項を確実に理解し、ひとつおきすべて学習したら、何度も繰り返して理解を定着させていきましょう。

英語Ⅱ（夏期スクーリング）

担当教員：田中 みんね

2年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

「英語Ⅱ」では、英語を読むために必要な文法事項の中で、特に重要と思われる文法事項（5文型、不定詞と動名詞、分詞、冠詞、前置詞、助動詞、接続詞、比較、時制、完了形と未来形など）を集中的に学習します。文法の学習や練習問題をやる中で、担当教員から英語に関する細かい説明を受けたり、また、疑問点をすぐに担当教員に質問することができるでしょう。さらに、英語の正しい発音やリズム、自然なイントネーションなどの指導も受けることができます。

授業の方法

【面接】 Manabaを用いて小テスト、レポート提出。具体的には、毎回の授業でテキストの各ユニットのDialogueとReading、および文法事項を確認し、manabaの小テストでExercisesをカバーします。初日の自己紹介と最終日の異文化交流の口頭発表で、作文とスピーチの練習をします。音読を繰り返した上で、会話を練習し、4技能を伸ばすことを目指します。

学位授与方針との関係

大学DP2 大学DP4

到達目標

「英語Ⅱ」のスクーリングでは、「英語Ⅰ」で学習した文法事項をさらに発展させて、エッセイや新聞記事、インターネットなど、様々なジャンルの英文を読みこなすための基礎力を養うことを目標にします。

授業計画

イントロダクション：授業の進め方（manabaに事前掲示）

- 1.Orientation, Self-Introduction
2. Unit 1 Verbs 1, Unit 2 Verbs 2
3. Unit 3 Verbs 3, Unit 4 Nouns 1
4. Unit 5 Nouns 2 （以上第1日：対面のちmanaba）
5. Extra 1 Using a Dictionary, Unit 6 Nouns 2
6. Unit 7 Articles
7. Unit 8 Adverbs （以上第2日：対面のちmanaba）
8. Unit 9 Prepositions 1, Unit 10 Prepositions 2
9. Unit 11 Auxiliary Verbs, Unit 12 Phrasal Verbs （以上第3日：対面のちmanaba）
10. Unit 13 Conjunctions 1, Unit 14 Conjunctions 2
11. Unit 15 Comparisons, Extra 3
12. Unit 16 Tenses 1 （以上第4日：対面のちmanaba）
13. Unit 17 Present Perfect & Future, Unit 18 Active Voice and & Passive Voice
14. Unit 19 Tenses 2, Unit 20 Conditionals & Subjunctives （第5日：対面のちmanaba）
15. Extra 4, Extra 2, Course Review （第6日：対面のちmanaba）

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

中学・高校における学習内容をひととおり復習しておくことが望まれます。

予習：各Unitごとのわからない単語を調べ、単語帳を作成する。1時間

復習：説明した文法事項を確認するために、英作文を作成する。小テスト。1時間

②使用教科書 新しくはじめる大学英語演習 南雲堂 2007、学習の手引

③参考書 指定なし

④準備するもの 英和辞典（電子辞書可）：詳しくは『学習の手引』英語学習のための基礎知識 第3章英和辞書の使い方参照してください。

⑤成績評価 全体を100として、授業内発表(30%)、課題(70%)、で評価します。

⑥学生へのメッセージ 毎回、授業計画に即して予習してきてください。

⑦追試験 対象外科目

英語Ⅱ（前期土曜スクーリング）

担当教員：中山 千尋

2年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

「英語Ⅱ」では、英語を読むために必要な文法事項の中で、特に重要と思われる文法事項（5文型、不定詞と動名詞、分詞、冠詞、前置詞、助動詞、接続詞、比較、時制、完了形と未来形など）を集中的に学習します。文法の学習や練習問題をする中で、担当教員から英語に関する細かい説明を講義形式で配信いたします。また、疑問点をすぐに担当教員にオンライン上で質問することができます。さらに、英語の正しい発音やリズム、自然なイントネーションなどの指導も受けることができます。

授業の方法

【動画視聴型（manaba 利用）】

講義動画を視聴することで学び小テストや課題提出による理解度確認や質疑 応答、履修生同士の意見交換等を行います。

学位授与方針との関係

大学DP2 大学DP4

到達目標

「英語Ⅱ」のスクーリングでは、「英語Ⅰ」で学習した文法事項をさらに発展させて、エッセイや新聞記事、インターネットなど、様々なジャンルの英文を読みこなすための基礎力を養うことを目標にします。

授業計画

1. イントロダクション：授業の進め方（第1日：動画視聴型(manaba)）
2. Unit 1 Verbs 1（主に Reading と Level 2 を中心に学習します。以後も同じ）
3. Unit 2 Verbs 2
4. Unit 3 Verbs 3（以上第2日：動画視聴型(manaba)）
5. 動詞関連項目のまとめ
6. Unit 7 Articles
7. Unit 9 Prepositions 1（以上第3日：動画視聴型(manaba)）
8. 冠詞、前置詞のまとめ
9. Unit 11 Auxiliary Verbs
10. Unit 13 Conjunctions 1
11. Unit 15 Comparisons（以上第4日：動画視聴型(manaba)）
12. 助動詞、接続詞、比較の用法のまとめ
13. Unit 16 Tenses 1
14. Unit 17 Present Perfect & Future（以上第5日：動画視聴型(manaba)）
15. 全体のまとめ（第6日：動画視聴型(manaba)）

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

中学・高校における学習内容をひととおり復習しておくことが望まれます。時間数は特に定めません。

②使用教科書 新しくはじめる大学英語演習 南雲堂 2007、学習の手引**③参考書** 指定なし**④準備するもの** 英和辞典（電子辞書可）：詳しくは『学習の手引』英語学習のための基礎知識 第3章英和辞書の使い方を参照してください。**⑤成績評価** 全体を100として、毎回の課題（70%）、レポート（30%）から評価します。**⑥学生へのメッセージ** 毎回、授業計画に即して予習してきてください。**⑦追試験** 対象外科目

英語Ⅱ（後期土曜スクーリング）

担当教員：高梨 絵梨沙

2年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

「英語Ⅱ」では、英語を読むために必要な文法事項の中で、特に重要と思われる文法事項（5文型、不定詞と動名詞、分詞、冠詞、前置詞、助動詞、接続詞、比較、時制、完了形と未来形など）を集中的に学習します。教室で学習できるため、文法の学習や練習問題をやる中で、担当教員から英語に関する細かい説明を受けたり、また、疑問点をすぐに担当教員に質問することができるでしょう。

授業の方法

【面接】

学位授与方針との関係

大学DP2 大学DP4

到達目標

「英語Ⅱ」のスクーリングでは、「英語Ⅰ」で学習した文法事項をさらに発展させて、エッセイや新聞記事、インターネットなど、様々なジャンルの英文を読みこなすための基礎力を養うことを目標にします。

授業計画

1. イントロダクション：授業の進め方
2. Unit 1 Verbs 1（主にReadingとLevel 2を中心に学習します。以後も同じ）
3. Unit 2 Verbs 2（第1日）
4. Unit 3 Verbs 3
5. 動詞関連項目のまとめ
6. Unit 7 Articles（以上第2日）
7. Unit 9 Prepositions 1
8. 冠詞、前置詞のまとめ
9. Unit 11 Auxiliary Verbs（以上第3日）
10. Unit 13 Conjunctions 1
11. Unit 15 Comparisons（以上第4日）
12. 助動詞、接続詞、比較の用法のまとめ
13. Unit 16 Tenses 1
14. Unit 17 Present Perfect & Future（以上第5日）
15. 全体のまとめ、ショート・プレゼンテーション（第6日）

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

中学・高校における学習内容をひとつおくり復習しておくことが望まれます。時間数は特に定めません。

②使用教科書 新しくはじめる大学英語演習 南雲堂 2007、学習の手引

③参考書 指定なし

④持参するもの 英和辞典（電子辞書可）※授業中はスマートフォンを辞書の代わりとするのは不可とします。

⑤成績評価 全体を100として、毎回の復習テスト、授業参加、ショート・プレゼンテーション、最終試験（スクーリング最終日（第6日）に筆記試験を実施）から総合的に評価します。

⑥学生へのメッセージ 毎回、授業計画に即して予習してきてください。初回授業には必ず教科書を持参すること。（初回からUnit1,2の学習を始めるため）

⑦追試験 対象科目

英語コミュニケーション (夏期スクーリング)

担当教員：林 美里

1 年次～ 選択必修 2 単位

スクーリング科目／2026 年度

概要

本授業では、①モデルとなる英会話を聞き取る、②様々な文章や資料から情報を読み取る、③自分の言葉で他者に伝える、ということを中心に学習します。日常の中で身近な内容・表現を扱い、実際に聞く・話すという活動を行います。

授業の方法

【動画視聴型遠隔授業 (manaba 利用)、同時双方向型遠隔授業 (manaba, Zoom 利用)】

指定テキストのほか、配信する講義動画・資料を視聴・閲覧しながら学習を進めてください。1 部のユニットについては、双方向型の授業を毎日実施します (zoom 使用、参加必須)。ユニット毎に小テストを実施し、双方型授業の中でも理解度確認を行います。口頭での質疑応答、履修生同士の意見交換等は zoom の授業の中で行うことができます。(授業期間内、メールでも質問対応します)

学位授与方針との関係

大学DP2 大学DP4

到達目標

英語でのコミュニケーション能力を高めることに重点を置き、相手が意図することを理解し、自分自身の意志を伝えることができるようになる、ということを目指します。

授業計画

イントロダクション (授業の進め方と学生に求めるもの。動画視聴型及び zoom での双方型での説明を実施)

1. Day 1 (pp. 8～11)
2. Day 2 (pp. 12～15)
- 3-1. Day 3 前半 (pp. 16～17) (以上第 1 日)、
- 3-2. Day 3 後半 (pp. 16～19)
4. Day 4 (pp. 20～23) (zoom での双方型授業を実施)
5. Day 5 (pp. 24～27) (以上第 2 日)
6. Day 6 (pp. 30～33) (zoom での双方型授業を実施)
7. Day 7 (pp. 34～37)
- 8-1. Day 8 前半 (pp. 38～39) (以上第 3 日)、
- 8-2. Day 8 後半 (pp. 40～41)
9. Day 9 (pp. 42～45)
10. Day 10 (pp. 46～49)、(以上第 4 日)
11. Day 11 (pp. 52～55) (zoom での双方型授業を実施)
12. Day 12 (pp. 56～59)
- 13-1. Day 13 前半 (pp. 60～61) (以上第 5 日)、
- 13-2. Unit 13 後半 (pp. 62～63) (zoom での双方型授業を実施)
14. Day 14 (pp. 64～67)
15. Day 15 (pp. 68～71)、まとめ (以上第 6 日)

*一部のユニットについて、zoom での双方型授業を行う。授業期間中、4 日目を除いて毎日実施する。全員参加必須。

*双方型授業について、1 日目は 60 分程度 (ガイダンス)、2・3・5・6 日目は 100 分行う。(途中 5 分ほどの休憩 1 回あり。詳細の時間は後日連絡する。それ以外は動画視聴形式で行う。授業期間終了までにすべての動画視聴型授業動画を視聴する必要あり。

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

次回の授業範囲となる Unit は必ず目を通してきてください。特に Reading の箇所は完璧に訳文を書く必要はありませんが、分からない単語の意味を調べ、全体的にどんな事が書かれているか把握するところまでは予習しておいてください (最低 2 時間)。

②**使用教科書** Let's Check Out the UK! Paul Chris MacVay 金星堂 2015。授業開始日までに必ず入手しておくこと。授業当日までに入手できなかった場合は、いかなる理由でも履修に参加できない。

③**参考書** 指定なし

④**準備するもの**

教科書、英和辞典（大修館書店『ジーニアス英和辞典』、研究社『リーダーズ英和中辞典』など、電子辞書可）、筆記具。
授業参加にあたっては、zoomをインストール、使用できるようにしておくこと。発言が可能な、静穏な環境から参加すること（電車の中やカフェなど、声を出せない場所からの参加は不可。判明した時点で欠席扱いとする）。インターネット環境・使用するパソコンの音声・カメラデバイスを整えておくこと。

⑤**成績評価**

評価は、双方型授業での授業貢献度が 30%、授業動画などを通じた授業参加が 15%、復習小テストなどの課題評価を 55%とします。復習小テストでは、前回の授業で扱った語彙、表現についての確認を行います。

以下の①～③のいずれかに該当する場合は単位取得を認めません。①双方型授業を 1.5 回分以上欠席した場合(0.5 回=遅刻、早退など)、②課題の小テストの未提出が計 6 回のうち 1/3 回以上の場合、③各回のテストの成績が著しく不良で総合点が合格基準に達しない、④視聴必須としている授業ページ・動画の未確認・未視聴が全体の 1/3 以上であることが判明した場合

⑥**学生へのメッセージ**

短い期間にしっかりと学習に取り組んでいただきたいため、zoom 授業を実施し、参加必須とします（※実施日程は授業計画を参照）。詳細はシラバス、案内動画で説明します。6 日間のうちに学習する量がかなりあります。双方型授業に全日参加し、授業動画はすべて視聴して学習することが履修参加条件です。日常生活の中で英語を使用する機会は少ないと思いますが、この授業で集中して英語に触れることで英語を聞くこと話すことの面白さ、また英語圏の文化に触れる楽しさを体感いただければとても嬉しいです。

⑦**追試験** 対象外科目

英語コミュニケーション（前期土曜スクーリング）

担当教員：小池 久恵

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

イギリス文化をテーマとし、さまざまなトピックを題材に英語コミュニケーション能力を養います。コミュニケーションに必要な言語と社会・文化を理解し、背景知識を深めながら、英文資料の精読、速読、文法確認を通して英語の技能向上を目指します。

授業の方法

【同時双方向型（manaba、Teams 利用）】

manaba と Teams を利用し、リアルタイムでの講義と双方向での議論を中心に授業を進めます。manaba にアップされる講義資料に加えて、映像資料やインターネットを活用したオンライン資料も取り入れ、アクティブに英語の受信発信をおこないます。

学位授与方針との関係

大学DP2 大学DP4

到達目標

イギリス文化を通して英語を学ぶ。英文の速読速解能力を養う。英語の受信・発信力を高める。

授業計画

【第1日】(Teams のち manaba)

1. イギリスの4つの文化圏
2. イングランドの歴史風土
3. イングランドの文化・地域的特色

【第2日】(Teams のち manaba)

4. ウェールズの歴史風土
5. ウェールズの文化・地域的特色

【第3日】(Teams のち manaba)

6. スコットランドと北アイルランドの歴史風土
7. スコットランドと北アイルランドの文化・地域的特色

【第4日】(Teams のち manaba)

8. イギリス文学（英語文学と文学賞）
9. イギリス文学（ミステリ小説）

【第5日】(Teams のち manaba)

10. イギリス演劇（文化遺産としての演劇）
11. イギリス演劇（シアターランドと役者たち）
12. イギリス演劇（シェイクスピアと日本）

【第6日】(Teams のち manaba)

13. 年間行事（ディケンズとクリスマス）
14. 年間行事（イベントと衣・食文化）
15. まとめ

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

manaba のコースニュースと配布資料を読んで授業にのぞんでください。予習・復習・課題レポート作成に90分以上充てること。

②使用教科書 授業で使用する資料等はmanaba にアップします。

③参考書 授業時に紹介します。

④準備するもの 英和辞書を用意してください。

⑤成績評価 授業参加度及び毎回授業内で指示する課題70%、まとめのレポート課題30%とします。

⑥学生へのメッセージ 授業に関する連絡・資料の提示・課題レポートの提出はmanaba を通しておこないます。第1回授業前に授業情報・事前準備などをmanaba でお知らせしますので、確認をお願いします。

⑦追試験 対象外科目

英語コミュニケーション（後期土曜スクーリング）

担当教員：加藤 麗未

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

シンプルな英語表現を使って、食事に関する会話を楽しみます。また、自分の好きな料理など、身近なことについて簡単に英語で説明できるように練習します。食品やキッチン用品に関するボキャブラリー、感情を表す表現などを学び、英語表現を豊かにしていきましょう。毎回、グループでの会話や、短いプレゼンの機会をふんだんに設けています。食物学科・食科学科の方はもちろん、食に関心がある方・シンプルな英語でコミュニケーションを楽しみたい方ならどなたでも大歓迎です。中学生レベルの文法で理解できる簡単な内容から始まり、徐々に内容のレベルが上がっていきます。

授業の方法

【面接】

学位授与方針との関係

大学DP2 大学DP4

到達目標

- ・基本的な文法を使って食べ物や料理に会話を楽しむことができる
- ・食品や料理方法に関する表現を覚え、会話や説明に活用できる

授業計画

第1日目：1. 自己紹介をして打ち解ける 2. 台所の状態について話してみる 3. 調理器具について説明する
第2日目：4. 好き嫌いに関して話してみる 5. 食品について説明する 6. レストランでオーダーしてみる
第3日目：7. 料理方法について話す 8. レシピについて話してみる 9. 食生活についてアドバイスしてみる
第4日目：10. 食生活全般について専門知識も生かしながら会話してみる 11. 食生活に関する調査などを含めて会話を充実させる
第5日目：12. 栄養士のように話してみる 13. 和食と洋食の特徴について
第6日目：14. 健康問題について 15. これまでに学んだ表現を使って、好きな話題についてプレゼン

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

予習として、1時間を目安に、次回のUnitで取り上げる会話文のリスニングと発音練習に取り組んでください。教科書付属のCDかダウンロード音源を活用して下さい。

②使用教科書 『Speaking of Nutrition』 Peter Vincent, Alan Meadows, Naoko Nakazato 著、南雲堂、2016年

③参考書 特になし

④持参するもの 筆記用具、資料保管用ファイル、英和辞書（電子辞書でも可）

⑤成績評価 平常点（ペアワークの取り組み、プレゼンなどの課題）60%、最終課題40%

⑥学生へのメッセージ 私たち日本人にとって、英語を話すことは、読み書きに比べてハードルが高いですが、まずはどんなことでも、口に出して覚え、英語の音やリズムと仲良くなることから始めましょう。わからなくなってしまった場合はフォローしますので、失敗は気にせずどんどん英語を口に出して皆でコミュニケーションを楽しみましょう。

⑦追試験 対象外科目

ドイツ語（前期土曜スクーリング）

担当教員：小出 昌弘

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

大学に入って外国語を二つ以上勉強することは既に世界の常識ですね。manaba と Zoom を用いて（慣れてしまえばなんということはありません）、テキスト【開講時に北ドイツの風景や町並みなどの写真も織り込んだオリジナルの教材を配布しますので、お財布には優しい!?!】やパワーポイントなどの資料に沿って読み・書き・聞き・話すためのドイツ語の入り口と言うべき基礎の基礎を学んでいきます。毎回この言語の様々な基本的な仕組み・仕掛けをわかり易く説明して、皆さんにもその都度問題等を解いて頂きながら参加してもらって進めていく形式です。基礎を勉強すれば、楽しいドイツ旅行やドイツ人との交流、メールのやり取り、また、簡単な童話などから進んで原書購読、あるいは英語との比較等々…様々な新しい世界があらから近づいてきてくれます。毎回授業の最後には、写真やネットを見ながらバーチャル旅行もできるよう、映像や写真などをお見せしてまいります。皆さんが以後、独力でも中級・上級を目指して学習を続けられるように基礎固めをします。

授業の方法

【同時双方向型（manaba, Zoom 利用）】

学位授与方針との関係

大学DP3 大学DP4

到達目標

辞書等も活用して、ドイツ語の基本的な会話・読解・作文ができることを目標とします。

授業計画

授業は初回よりすべて Zoom を用いて行い、まとめの資料などは manaba に掲載致します。	8. 現在形の用法
1. ガイダンス・勉強の進め方ードイツ・ドイツ語とは（第1日）	9. 動詞を用いた様々な表現練習
2. アルファベット	10. 名詞の性（以上第4日）
3. 発音とつづり	11. 定冠詞と不定冠詞
4. ドイツ語の主語（以上第2日）	12. 名詞の格変化
5. 現在人称変化	13. 名詞を用いた様々な表現練習（以上第5日）
6. 不定詞と定動詞 及び 定動詞の位置	14. 不規則動詞・名詞の複数形・冠詞類
7. 語順について（以上第3日）	15. まとめ（以上第6日）

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

街中やメディアで見つけたドイツ語らしきものがあれば書き留めておいたり、ドイツの地図を眺めておくのも良いでしょう。1回の授業につき1時間程度の復習をしてください。

②使用教科書 初回配付のテキストや資料を使用します。

③参考書 特に定めません。

④準備するもの 独和辞典をお持ちでしたら準備しておいてください【必携ではありません】。紙のモノ（極端に古いものでなければ）でも電子辞書でも使えます。

⑤成績評価 スクーリング最終日実施の試験（60分程度）を中心に評価。

⑥学生へのメッセージ

わずか6回という短い期間ではありますが、楽しくすすめて行きたいと思います。ドイツ旅行に行ってみたいという方・英語は苦手だけれどもドイツ語はやってみたいという方・独和辞典がたまたま家に転がっていたという方…等々大歓迎です。年二回実施されるドイツ語検定などもあり、5級くらいなら結構すぐに受かります。ここで得た知識は様々な場面で生かせるはずですので、一緒に頑張りましょう！「同時双方向型遠隔授業」という難しそうな名前になっていますが、IT機器に疎い方でも大丈夫、気楽に受講して頂きたいと思います。

⑦追試験 対象外科目

ドイツ語会話（夏期スクーリング）

担当教員：小出 昌弘

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

大学に入って外国語を二つ以上勉強することは既に世界の常識ですね。全くの初心者の方を中心として、ドイツ語表現に必要な基礎をゆっくり学びます。ドイツの地図を見ながら、大都市や観光地、ロマンチック街道・メルヘン街道ってどの辺り？空港は？等々から始め、続いてABCの発音や単語の読み方など習得します。短いフレーズを自ら表現出来るような練習をして参りましょう。テキストは配付の資料やパワーポイント等になりますので、家計にも優しい講座です。ドイツ語の仕掛けをわかり易く説明して、皆さんと一緒に考えながら進めます。基礎を学べば、「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」すらドイツ語で言うことなく帰国して終わりのツアーも卒業です。ドイツ人との交流やメールのやり取りも始まるかもしれません。又、簡単な童話等から進んで原書購読、英語との比較、ドイツひとり旅等々、様々な分野にも繋がるでしょう。毎回授業の最後には、動画等を見たりネットを使って隠れたドイツの名所や旅行情報等もお示ししたいと思っています。

授業の方法

【同時双方向型（manaba, Zoom利用）】

学位授与方針との関係

大学DP3 大学DP4

到達目標

ドイツ語の基本的な理解・表現等ができることを目標とします。

授業計画

授業は初回よりすべて Zoom を用いて行い、まとめの資料などは manaba に掲載致します。

【第1日・ドイツ語の基礎的な知識を得る】

1. ガイダンス・勉強の進め方
2. アルファベットは英語と同じ…いや、変なテンテンが？！

【第2日・発音の規則と動詞を使うための準備】

3. ドイツ語はとにかく変化がお好き
4. お前と貴方の関係は…
5. 動詞のダウンロードとインストール

【第3日・動詞を使って表現してみる】

6. 自己紹介をしてみよう！

7. 言語の才能がありますねえ！
 8. ところ変わればドイツ語も変わる
- 【第4日・名詞を使うための準備】

9. ホロ苦い性の悩みについて
10. 女性ではなかった少女の話
11. ご出身はどちら？

【第5日・名詞を使って表現してみる】

12. 時間が経つのは早いものですね
13. 一つだけでも手一杯なのに、それ以上無理！？
14. 電話番号を教えてください？

【第6日・まとめと展望】

15. 教会の鐘も鳴り、宴もたけなわですが… まとめ・復習。

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

ドイツ語らしき単語を見つけたら書き留めておいたり、ドイツの地図や旅行案内などを眺めておくのも良いかもしれません。毎回1時間程度の復習をしてください。

②使用教科書 配付の資料・テキストを使用します。

③参考書 指定なし

④準備するもの 独和辞典をお持ちでしたら出しておいてください【必携ではありません】。電子辞書でも紙のモノでも可。

⑤成績評価 課題等を中心に平常点も加味して評価。

⑥学生へのメッセージ

旅行に行きたい・英語は苦手だがドイツ語はやってみたい・なるべくお金をかけずにちゃっちゃと終えたい…様々な方歓迎です。会話の授業とはなってはいますが、構えるような大げさなものでもなく、事前の知識も不要で、基礎の基礎をゆっくりやっていますし、急にドイツ語で話しかけたりもしませんので安心してください。ITに疎い方でも大丈夫。独検も5級程度は結構すぐに受かりますので、一緒に頑張りましょう！

⑦追試験 対象外科目

フランス語（夏期スクーリング）

担当教員：西脇 雅彦

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

フランス語の基礎を学びます。教科書は、日本人の主人公 Aya がパリの料理学校に留学するというストーリーになっていて、やさしい会話表現をもとに文法事項を確認し、練習問題をとおしてフランス語に親しんでいきます。人数にもよりますが、ペアワークを行うこともあります。時間の許すかぎりフランスの文化も紹介します。

授業の方法

【同時双方向型（manaba, Zoom利用）】

Zoomを利用したリアルタイムで授業を行います。解説のあとは、みなさんに参加してもらいながら進めていきます。ZoomやLMS【manaba】経由で課題を提出してもらうこともありますが、はじめて作業を行う際には時間を取って説明します。

学位授与方針との関係

大学DP3 大学DP4

到達目標

フランス語の基礎を身につける。フランス文化に対する理解を深める。

授業計画

第1日：Zoom

1. イントロダクション（授業の進め方、フランス・フランス語について）
2. アルファベ、綴り字の読み方
3. 国籍、挨拶

第2日：Zoom

4. 動詞 être、名詞
5. 不定冠詞、指示代名詞
6. 形容詞の性・数一致

第3日：Zoom

7. -er 動詞
8. 定冠詞
9. 疑問文

第4日：Zoom

10. 動詞 avoir、否定文
11. 人称代名詞強勢形

第5日：Zoom

12. 動詞 aller と近接未来
13. 指示形容詞、動詞 faire

第6日：Zoom

14. 所有形容詞、動詞 pouvoir
15. まとめ

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間 事前準備はとくに必要ありません。

②使用教科書 タルト・タタン（二訂版） 藤田裕二・東海麻衣子 駿河台出版社 2023

③参考書 指定なし

④準備するもの 教科書

⑤成績評価 授業の参加度、取り組み、諸々の課題を総合的に評価します。

⑥学生へのメッセージ 楽しみながらフランス語を学んでいきましょう。

⑦追試験 対象外科目

フランス語会話（後期土曜スクーリング）

担当教員：西脇 雅彦

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

基礎的な文法を確認しつつ、フランス語らしい発音を学び、練習問題やペア・ワークなどをおして、コミュニケーションに役立つ表現を習得していきます。主な対象は既習者ですが、はじめてフランス語を学ぶひとにも受講できます。時間の許すかぎりフランス文化の紹介も行います。

授業の方法

【同時双方向型（manaba, Zoom利用）】

Zoomを利用したリアルタイムで授業を行います。解説のあとは、みなさんに参加してもらいながら進めていきます。ZoomやLMS【manaba】経由で課題を提出してもらうこともありますが、はじめて作業を行う際には時間を取って説明します。

学位授与方針との関係

大学DP3 大学DP4

到達目標

フランス語の文法と発音の基礎を習得し、基本的なコミュニケーションができる。フランス文化に対する理解を深める。

授業計画

第1日：Zoom

1. イントロダクション
2. アルファベ、数詞
3. 自己紹介する

第2日：Zoom

4. 職業、住所
5. 話せる言語
6. 否定文

第3日：Zoom

7. 持ち物について
8. 名詞の性・数
9. 疑問文

第4日：Zoom

10. 好き嫌いを言う
11. 形容詞の性・数

第5日：Zoom

12. 行き先を言う
13. 交通手段

第6日：Zoom

14. 家族を紹介する
15. まとめ

受講にあたって

①**準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間** あらかじめ該当箇所を目をおしておく、より理解が深まります。授業で扱ったところはきちんと復習しておいてください。60分程度。なお、はじめてフランス語を学ぶひとは、もう少し時間がかかるかもしれません。

②**使用教科書** 新・オン プラティック 北村亜矢子 朝日出版社 2017

③**参考書** 指定なし

④**準備するもの** 教科書

⑤**成績評価** 最終日の試験を中心に、授業の参加度や課題を加味して総合的に評価します。

⑥**学生へのメッセージ** 楽しみながらフランス語を学んでいきましょう。

⑦**追試験** 対象外科目

中国語（夏期スクーリング）

担当教員：鈴木 直子

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

中国語の基礎である発音と初級レベルの文法事項を学習する。中国語の発音表記（声調、ピンイン）の発音の仕方を習得し、文法事項を使って身近なことを中国語で表現できる力を身につける。

授業の方法

【同時双方向型遠隔授業（manaba, Zoom利用）】

学位授与方針との関係

大学DP3 大学DP4

到達目標

中国語の発音の仕方を理解し、正確に発音することができる。
初級の文法事項を使い、中国語で自分の身の回りのことが表現できる。

授業計画

1. ガイダンス（授業の進め方、中国語についての基本知識、第1課①単母音、声調、子音、軽声）（第1日 Zoom）
2. 第2課 複合母音、鼻母音
3. 発音のまとめ、第3課 数、月日、時刻
4. 第4課 自己紹介（名前、大学名など）、第3課、第4課まとめ（第2日 Zoom）
5. 第5課 疑問詞疑問文、指示代名詞
6. 第6課 存在や所有の表現
7. 第5課、第6課まとめ（第3日 Zoom）
8. 第7課 どこ、選択疑問文
9. 第8課 形容詞述語文、前置詞、「～するのが好きだ」、連動文
10. 第7課、第8課まとめ（第4日 Zoom）
11. 第9課 手段、方法の尋ね方、値段の尋ね方、比較文
12. 第10課 完了の“了”、助動詞（第5日 Zoom）
13. 第9課、第10課まとめ
14. 第11課 助動詞
15. 第12課 進行形、禁止表現、経験、「是～的」構文（第6日 Zoom）

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

予習の段階では音声聞き音読し、単語の簡体字やピンインを覚えておく（45分）
授業後の復習として発音練習と文法事項の確認、練習問題（1時間）

②使用教科書

『《新版》はじめよう楽々中国語』小林和代・韓軍著、白水社、2025年2月

③参考書

『Whyにこたえるはじめての中国語の文法書』新訂版、相原 茂/石田 知子/戸沼 市子共著、同学社、2016年

④持参するもの 筆記具、ノート

⑤成績評価

授業内での発音や練習問題、課題、口頭試験により総合的に評価する。

⑥学生へのメッセージ

発音をしっかりと身につけ、一緒に楽しく中国語を学んでいきましょう！

⑦追試験

対象外科目

中国語会話（夏期スクーリング）

担当教員：馮 日珍

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

中国語を基礎から学びます。発音記号(ピンイン)を学びつつ、発音の練習から始め、簡単な会話文を通して文法の基礎を学びます。またそれと同時に現在の中国の姿にも触れ、理解をより深めていただければと思っています。中国語の文法的な特徴を理解し、簡単な会話ができるよう、効率的にかつ楽しく勉強しましょう。

授業の方法

【同時双方向型遠隔授業 (manaba, Zoom 利用)】

授業は指定教科書を使用して進める。

学位授与方針との関係

大学DP3 大学DP4

到達目標

ピンインを手がかりに中国語の発音ができる。

基本の文型を使用して挨拶、自己紹介などの簡単な会話ができる。

授業計画

- | | |
|---|---|
| 第1日：① ガイダンス：これから学ぶ中国語についての概略や
授業の進め方、勉強の仕方などについて | 第4日：⑩ 6課「どこへ行く？何食べる？」
⑪ 7課「感想をたずねて、答えよう。」 |
| ② 1課 声調・軽声・単母音、あいさつ表現 | 第5日：⑫ 8課「どこに行つて何をするかたずねよう。」
⑬ 9課「どこかに行った経験をたずねよう。」 |
| ③ 2課 複母音・子音 (1)、人称代名詞・親族の言い方 | 第6日：⑭ 文法の総復習
⑮ 実践練習 |
| 第2日：④ 3課 子音 (2)・鼻母音 -n/-ng、指示代名詞の言い方 | |
| ⑤ 4課 r 化・変調 2音節の発音練習、綴り方のルール | |
| ⑥ 1～100 までの数字と曜日の言い方 | |
| 第3日：⑦ ピンイン、発音の復習 | |
| ⑧ 5課「自分と他者のプロフィールを言おう。」 | |
| ⑨ 初対面の会話練習 | |

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

毎日の授業の後、復習に1時間程度が必要です。Manaba に掲示の課題以外に毎日の復習として音声をよく聞きながら教科書の音読。予習として翌日に学ぶ課の新出単語の音声を聞き簡体字、ピンインを書きましょう。

②使用教科書

『半期で学ぶ中国語入門』福田翔・張正 著 金星堂 2025

③参考書 必要に応じて随時紹介します

④持参するもの なし

⑤成績評価 授業中の練習、毎日の課題、最終日の発表等により総合的に評価します

⑥学生へのメッセージ

中国語は発音がとても大切です。発音記号を手がかりに中国語の発音をしっかりと練習したいと思います。中国語の発音を楽しめるように少しずつ学習を進めていきましょう。受講生の皆さんの習熟度を見ながら授業を進めますので、シラバスは適宜変更する可能性があります。

⑦追試験 対象外科目

韓国語（前期土曜スクーリング）

担当教員：金 順任

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

韓国語の基礎を学習します。教科書にそって文字と発音の練習から始めていき、基礎的な文法、表現を学びます。日常よく使うあいさつ言葉や単語を覚え、自己紹介ができるようになるまで進めます。韓国語は日本語と様々な点で類似していますので、その利点を生かして、効率よく楽しく進めていきたいと思えます。さらに語学の学習を通して、韓国社会と文化への理解も深めます。

授業の方法

【同時双方向型（manaba、Zoom利用）】

Zoomを利用してリアルタイムで授業を行います。Zoomの際にはカメラオン必須です。

学位授与方針との関係

大学D P3 大学D P4

到達目標

辞書を活用して、韓国語の基本的な会話・読解・作文ができる。
簡単な自己紹介ができる。

授業計画

(第1日) zoom	(第4日) zoom
1. ガイダンス	8. 第2課 漢字語数詞
2. 母音 I	9. 第3課 名詞の否定文
3. 子音	(第5日) zoom
(第2日) zoom	10. 第4課 用言の改まった丁寧体
4. 母音 II	11. 第4課 助詞
5. 濃音・激音・パッチム	12. 第5課 用言の否定文
(第3日) zoom	(第6日) zoom
6. 第1課 名詞の改まった丁寧体	13. 第5課 固有語数詞
7. 第2課 名詞のカジュアルな丁寧体	14. 第5課 自己紹介文を作成
	15. まとめ

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

受講中は毎日新しいことを学習していきますので、復習を十分に行ってください。

1回の授業につき1時間程度の復習をしてください。

②使用教科書 韓国語会話 鄭寅玉・申奎燮 白帝社 2013

③参考書 なし

④準備するもの 筆記具、ルーズリーフなど

⑤成績評価 課題30%、発音・朗読などの小テスト20%、期末テスト50%

⑥学生へのメッセージ 授業への積極的な参加を希望します。

⑦追試験 対象外科目

韓国語会話（夏期スクーリング）

担当教員：文 智暎

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

主に韓国語の入門を終えた程度の**既習者を対象**として、会話に必要な文法を学習しながら、会話の練習を行います。また、映像を用い、韓国文化への理解を深めることを目指します。

授業の方法

【同時双方向型（manaba, Zoom利用）】

manaba と Zoom を利用した同時双方向型遠隔授業を教科書の内容に沿って行う。

学位授与方針との関係

大学DP3 大学DP4

到達目標

簡単な会話ができることを目標とします。

授業計画

授業はすべて同時双方向型遠隔授業です。（manaba と Zoom を利用）

(第1日: manaba で出席確認後 Zoom)

1. ガイダンス
2. 文法の復習、自己紹介
3. 第5課 何時から何時までですか？
固有語数詞の教え方、時間の言い方

(第2日: manaba で出席確認後 Zoom)

4. 連用形の作り方①
5. 否定文の作り方
6. 第6課 昼ご飯はどこで食べますか

(第3日: manaba で出席確認後 Zoom)

7. 並列表現: 安くておいしい
連用形の作り方②
8. 第7課 家から学校までどのくらいかかりますか
連用形の作り方③ (縮約形)

(第4日: manaba で出席確認後 Zoom)

9. 第8課 きのう何をしましたか
過去形の作り方
10. 「ㅎ」変則、A と B
11. 第9課 どんな料理が好きですか。
(第5日: manaba で出席確認後 Zoom)
12. 「～が上手だ/下手だ」「～が好きだ」
13. 第10課 おいしくしてください。
丁寧な指示・誘いの表現: ～なさい、～てください
(第6日: manaba で出席確認後 Zoom)
14. 依頼表現: ～てください (連用形+ジュセヨ)
「ㅁ」変則
15. まとめ

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

教科書1課～4課までを復習してきてください。

受講中は毎日新しいことを学習していきますので、復習を十分に行ってください。1日の授業につき1時間程度。

②使用教科書 『韓国語会話』鄭寅玉・申奎燮 著 白帝社 2010

③参考書 なし

④準備するもの 教科書、筆記用具など

⑤成績評価 課題及び授業参加による評価 (40%)、口頭テスト (30%)、小テスト (30%)

⑥学生へのメッセージ 授業への積極的な参加を希望します。

⑦追試験 対象外科目

情報処理演習（夏期スクーリング）

担当教員：藤田 智子・渡邊 ゆり

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

概要

情報科学および情報処理に関する基礎的な知識を、講義と実習の組み合わせによって習得する。コンピュータ利用に関する実習はWindows環境上でアプリケーションソフトウェアを用いて行う。また、情報科学およびコンピュータハードウェア・ソフトウェア、ネットワークに関する基本概念についても講義を通して学習し、情報化時代に求められる基礎的な能力を身につける。

授業の方法

【同時双方向型（manaba, Zoom, Microsoft Teams 利用）】

テキスト（冊子、PDF ファイル）と、LMS（manaba）やZoom、Teams を利用した遠隔授業。

授業は、Zoom で開始し、講義、演習を行い、最後に補足説明、次回の授業に関する説明を行う。

学位授与方針との関係

大学D P1 大学D P2

到達目標

- ①情報科学およびコンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク等の情報処理技術に関する基本的な知識の習得。
- ②ワープロ、表計算を中心とするアプリケーションソフトウェアの基本操作とその活用のための技術の習得。
- ③大学のLMS（学習管理システム：manaba）を利用したe-ラーニングに関する基本的な知識と基本操作の習得。
- ④遠隔授業を履修するための環境の基本的な設定と知識および技術の習得。

授業計画

実習環境について（manaba に事前掲示）

（4日目）同時双方向型（manaba および Zoom）

（1日目）同時双方向型（manaba および Zoom）

10. ソフトウェアとは

1. イントロダクションおよび情報倫理

11. Word 実習 I（文書作成の基礎）

2. 情報と情報処理

12. Word 実習 II（文書整形、表作成、絵や写真の挿入）

3. Excel 実習 I（表計算について）

（5日目）同時双方向型（manaba および Zoom）

（2日目）同時双方向型（manaba および Zoom）

13. ネットワークとインターネット

4. コンピュータのハードウェア

14. Excel, Word 実習（関数の応用、文書作成総合演習）

5. Excel 実習 II（グラフの作成）

（6日目）同時双方向型（manaba および Zoom）

6. Excel 実習 III（相対セルと絶対セル）

15. まとめと総合演習

（3日目）同時双方向型（manaba および Zoom）

7. 情報の表現

※ 毎回、Office365 のアカウントを利用して本授業の Teams のチームにのみ視聴許可された講義動画、および操作動画視聴の宿題がです。

8. Excel 実習 IV（論理と条件分岐）

9. Excel 実習 V（データベース）

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

〔遠隔授業を受講するための環境設定〕サブモニタの使用を推奨する。難しい場合は、タブレットとメイン PC での参加も許可するが、Zoom にはどちらも大学のアカウントで参加すること。

〔スクーリング開始前〕キー入力はローマ字で行う。スムーズに入力できるように慣れておくこと。また、自宅での実習環境を整え、実習する PC および通信環境を事前に確認しておくこと（授業開始までに 3 時間程度）。OS はできるだけ最新のものがよい。Office はインストール版の 2021 または Office365 とする、それ以外はサポートできない。必要なら大学のアカウントを利用して Office365 をインストールしておくこと。また、大学のメールアドレス（JASMINE メール）を確認しておくこと。

〔スクーリング期間中〕授業で十分理解できなかった点については、教科書や参考書、manaba で配布された資料等を参照して次回までに理解を深めておくこと。課題等があれば必ずやっておくこと（1 回の授業につき 2 時間程度）。

②使用教科書 30 時間アカデミック Office2024 杉本くみ子、大澤栄子、高橋純子、若林雅子著 実教出版社 2026 年発行

旧版利用可（ただし、ページ番号や問題番号が最新版と異なるので注意すること）

③参考書 キーワードで学ぶ最新情報トピックス 奥村晴彦, 佐藤義弘, 中野由章(監修) 日経 BP 社 2022～2026 年に発行されているもの (2026 年発行が最新版)

補助プリント (必要に応じて PDF にて配付予定)

④準備するもの パソコン環境: 演習を行うパソコンは、Windows (Windows11) を推奨します。Mac (Monterey 以降) は使用できますがサポートはあまり望めません。Chromebook は不可。Office はインストール版 2021 または Office365 で Excel と Word を使用する (Office のバージョンが違くと、Office の機能不足により課題が提出できないことがあります)。Online 版は不可。

⑤成績評価

担当教員によって異なるが、原則として 6 日目 (最終日) に実施する総合演習の成績を中心に課題レポートなどを加味して決める。

⑥学生へのメッセージ

受講に際し本学アカウント (ユーザ名 (ID) とパスワード) が必要です。入学時に個別通知されていますので、各自受講前に必ず確認しておいてください。本学アカウントで Zoom に参加してください。

遅くとも初回授業の 1 週間前までに manaba で資料を公開するので必ず閲覧して必要なものを提出してください。

夏期スクーリングは連日実施される授業となります。授業時間帯は時間を確保し、対面と同じように授業に参加してください。また、授業時間中はできるだけ初回から最終日まで同じパソコンを使用してください。

毎回課題があり、授業前後に自宅学習を要しますので、自宅の PC より manaba にアクセス可能な環境を整えることをおすすめします。

事前アンケートと初回授業で実施する演習をもとに、クラスを 2 つに分けます。PC の基本操作に問題がない方を対象としています。クラスごとに LMS と Zoom を利用して操作を一緒に行う場合もあります。特に、ご自身の PC の画面を zoom で共有できない場合は、操作指導やアドバイスができませんので、パソコンの操作や zoom の操作に不慣れな方は対面授業での履修をお勧めします。

④に記載しているパソコン環境を準備するのが難しい方、および PC の通信環境が悪い方は、課題の提出が難しくなるので、対面授業での履修をお勧めします。また、質問は、manaba の掲示板で受け付けます。

なお、履修者数が多い場合には人数制限する可能性があります (2 クラス合計で 70 名までとする)。

<パソコンの操作とは>

フォルダの作成、フォルダ間のファイル移動およびコピー、ファイル名の変更、シングルクリック (ダブルクリックではない)

⑦追試験

対象外科目

特記事項

夏期スクーリングは、受講者数を 2 クラス合計で 70 名までとする。

前期土曜スクーリングは、受講者数を 2 クラス合計で 60 名までとする。

情報処理演習（前期土曜スクーリング）

担当教員：渡邊 ゆり

1年次～ 選択必修2単位

スクーリング科目／2026年度

情報科学および情報処理に関する基礎的な知識を、講義と実習の組み合わせによって習得する。コンピュータ利用に関する実習はWindows環境上でアプリケーションソフトウェアを用いて行う。また、情報科学およびコンピュータハードウェア・ソフトウェア、ネットワークに関する基本概念についても講義を通して学習し、情報化時代に求められる基礎的な能力を身につける。

授業の方法

【面接】

テキスト（冊子、PDFファイル）利用した対面授業。ファイル配布や課題提出に、LMS(manaba)を利用する。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2

到達目標

- ①情報科学およびコンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク等の情報処理技術に関する基本的な知識の習得。
- ②ワープロ、表計算を中心とするアプリケーションソフトウェアの基本操作とその活用のための技術の習得。
- ③大学のLMS（学習管理システム：manaba）を利用したeラーニングに関する基本的な知識と基本操作の習得。

授業計画

実習環境について（manabaに事前掲示）	（4日目）
（1日目）	10. ソフトウェアとは
1. イントロダクションおよび情報倫理	11. Word 実習 I（文書作成の基礎）
2. 情報と情報処理	12. Word 実習 II（文書整形、表作成、絵や写真の挿入）
3. Excel 実習 I（表計算について）	（5日目）
（2日目）	13. ネットワークとインターネット
4. コンピュータのハードウェア	14. Excel, Word 実習（関数の応用、文書作成総合演習）
5. Excel 実習 II（グラフの作成）	（6日目）
6. Excel 実習 III（相対セルと絶対セル）	15. まとめと総合演習
（3日目）	
7. 情報の表現	
8. Excel 実習 IV（論理と条件分岐）	
9. Excel 実習 V（データベース）	

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

【スクーリング開始前】キー入力にはローマ字で行う。スムーズに入力できるように慣れておくこと。また、自宅での実習環境を整え、実習するPCおよび通信環境を事前に確認しておくこと（授業開始までに3時間程度）。Officeはインストール版の2021またはOffice365とする、それ以外はサポートできないため必要なら大学のアカウントを利用してインストールしておくこと。また、大学のメールアドレス（JASMINEメール）を確認しておくこと。

【スクーリング期間中】授業で十分理解できなかった点については、教科書や参考書、manabaで配布された資料等を参照して次回までに理解を深めておくこと。毎回課題があるので、必ずやっておくこと（1回の授業につき2時間程度）。

②使用教科書 30時間アカデミック Office2024 杉本くみ子、大澤栄子、高橋純子、若林雅子著 実教出版社 2026年発行
旧版利用可

③参考書 キーワードで学ぶ最新情報トピックス 奥村晴彦、佐藤義弘、中野由章（監修） 日経BP社 2022～2026年に発行されているもの（2026年発行が最新版）

補助プリント（必要に応じてPDFにて配付予定）

④持参するもの 特になし

⑤成績評価

担当教員によって異なるが、原則として6日目（最終日）に実施する総合演習の成績を中心に課題レポートなどを加味して決める。

⑥学生へのメッセージ

受講に際し本学アカウント（ユーザ名(ID)とパスワード）が必要です。入学時に個別通知されていますので、各自受講前に必ず確認しておいてください。

遅くとも初回授業の1週間前までにmanabaで資料を公開するので必ず閲覧して必要なものを提出してください。

自宅での課題作成にはできるだけ初回から最終日まで同じパソコンを使用してください。

初回授業より前にmanabaに資料を掲示します。毎回課題があり、授業前後に自宅学習を要しますので、自宅のPCよりmanabaにアクセス可能な環境を整えることをおすすめします。

- ・パソコン環境：自宅で課題作成等の演習を行うパソコンは、Windows11を推奨します。Macは使用できますがサポートはあまり望めません。Chromebookは不可。Officeはインストール版2021または365でExcelとWordを使用する（Officeのバージョンが違くと、Officeの機能不足により課題が提出できないことがあります）。Online版は不可。
- ・閲覧環境：資料閲覧用として、スマートフォン・タブレット・Chromebook等の使用は可。

授業開始1週間前には必ずmanabaを確認してください。

なお、履修者数が多い場合には人数制限する可能性があります（2クラス合計で60名までとする）。

・パソコンの操作に不慣れな方は、対面授業で比較的サポートが受けやすい前期土曜スクーリングの履修をお勧めします。ただし、事前学修はしっかり行なって授業に参加してください。

⑦追試験

対象外科目

特記事項

夏期スクーリングは、受講者数を2クラス合計で70名までとする。

前期土曜スクーリングは、受講者数を2クラス合計で60名までとする。

情報科学 (テキスト)

担当教員：小川 賀代・長谷川治久

1年次～ 選択必修2単位

テキスト科目／2026年度

概要

20世紀半ばのコンピュータの出現と、その後の情報通信技術の急速な普及により、現在では地球規模の情報ネットワークが張り巡らされ、マルチメディア、ネットワークなどの用語をいたる所で耳にするようになってきた。このような情報を取り扱う科学は、コンピュータと通信を基盤とし、広範な分野を包含する新しい学問であるが、今やこれに関する知識は日常生活に不可欠なものになっている。この科目では、情報とその表現、コンピュータ処理の原理、通信の基礎的な知識、および目的に合わせて効果的にコンピュータを使いこなすためのソフトウェア利用法などを、テキストを通じて学ぶ。さらに新しいコンピュータ処理方式やマルチメディア情報の利用法など、最新の分野についてもふれる。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2

到達目標

情報の表現、コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、コンピュータの応用技術、ネットワークなどの情報科学に関する一般的な基本知識の修得。

学習の進め方

1. テキストの章ごとに学習を進める。深く学習したい場合は参考文献を調べる。
2. リポート課題を確認し、関係する箇所を改めてテキスト・参考文献に基づき学習してから、リポートを作成し、テキスト・参考文献との整合性等を確認した上で提出する。
3. リポート合格後、科目修了試験に向けてテキスト・参考文献により学習する。リポートで誤った課題やコメントを受けた課題については十分理解を深めておく。
4. 科目修了試験受験後は問題をどの程度解けたか確認し、難しかった箇所を改めて学習し、自分の弱点を克服することを推奨する。

内容

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 学習内容と手順の確認 | 9. 情報やメディアに関する技術 |
| 2. 情報とは何か | 10. ネットワークに関わる技術 |
| 3. 情報化社会と私たち | 11. インターネットの利用 |
| 4. コンピュータの歴史 | 12. 情報倫理とルール |
| 5. コンピュータの基礎 | 13. 脅威とセキュリティ |
| 6. ハードウェアの技術 (内部構造) | 14. IT 業界をリードする企業 |
| 7. ハードウェアの技術 (記憶と外部装置) | 15. まとめ |
| 8. ソフトウェアの技術 | |

テキスト・参考書

①テキスト 教養のコンピュータサイエンス 情報科学入門 第3版 丸善出版、2020、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 キーワードで学ぶ 最新情報トピックス (最新版は2026) 日経BP

成績評価

①リポート 課題の理解 40%、学習成果 30%、リポートの完成度 30%

②科目修了試験 設問ごとに配点を設け、合計点で評価する。

身体運動実習（夏期スクーリング）

担当教員：小川 哲也・佐古 隆之

1年次～ 必修1単位（家政学部）
選択必修1単位（食科学部）

スクーリング科目／2026年度

概要

生涯にわたりスポーツを楽しく実践していくための基礎的能力に関する講義および実技を行う。

授業の方法

【面接】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP3 大学DP5

到達目標

- ①自らのライフスタイルをコントロールしていく上で重要となる健康の保持増進のため、その基礎となる身体の諸機能を高める方法の習得を目指す。
- ②運動を楽しみたいという欲求を高め、生涯にわたりスポーツを楽しく実践していくための方法の習得を目指す。

授業計画

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. ガイダンス、講義1：運動の意義 | 9. 実技5：持久的運動種目 |
| 2. 実技1：ストレッチング | 10. 実技6：瞬発的運動種目 |
| 3. 実技2：ボール遊び | 11. 講義5：運動と栄養 |
| 4. 講義2：身体活動と生活習慣病 | 12. 実技7：ウォーキング（学外） |
| 5. 実技3：ソフトバレーボール | 13. 講義6：筋力トレーニング理論 |
| 6. 講義3：呼吸器、循環器、骨格筋のはたらき | 14. 実技8：筋力トレーニング |
| 7. 実技4：バドミントン | 15. まとめ |
| 8. 講義4：運動処方 | |

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間 指定しない

②使用教科書 指定しない

③参考書 これからの健康とスポーツの科学 第5版（テキスト科目テキスト）

④持参するもの

筆記用具、運動をするのに適した服装、体育館シューズ、タオル

屋外で実施するウォーキング時に必要な、歩きやすい外履きシューズ、日よけの帽子、水筒（ペットボトル可）、虫除けスプレー等

⑤成績評価

身体運動はその意義を理解するだけでなく、実践が伴わなければならない。授業に取り組む姿勢、目標達成度、技能、レポートについて、それぞれの最終成績の60%、10%、10%、20%を目安として評価する。最終成績60点以上を合格とする。

⑥学生へのメッセージ

身体運動実習は、体育館でバドミントン、卓球、ソフトバレーボールなどを主として複合的な運動種目を行います。過度に激しい運動は行いません。ジャージ（更衣室有）、タオル、体育館シューズ、飲み物（冷水器有）等を準備すること。ラケット等の用具は準備されています。

・実習は実技に関する講義および実技（それぞれ約110分）に分けて実施する。

・第1日目は、はじめにガイダンスを行う。授業の開始時刻までに指定の集合場所にまでに集合すること。ガイダンス終了後は講義と実技を行うので、筆記用具や運動服等を準備すること。

⑦追試験 対象外科目

特記事項 夏期スクーリングにおいては、病氣、けが、身体的ハンディキャップ等で実技の受講が難しい学生のために実技制限コースを設けています。このコースは提出された健康診断書を基にして保健管理センターの判断等を含めて最終的なコース決定を行い、該当の学生には個別に連絡します。

受講者数を3クラス合計で60名までとする。

身体運動演習（後期土曜スクーリング）

担当教員：佐古 隆之・澤田美砂子
杉山 哲司・小川 哲也
大沼 義彦

1年次～ 選択必修1単位

スクーリング科目／2026年度

概要

この授業は、運動の心身における効果、運動実践に必要な知識や技術を実技を通じて学ぶことを目的とする。実技の適切な実施方法および実施に対するフィードバック等をオンデマンド形式によって実施する。授業で扱う運動は、自宅あるいは自宅周辺で、特別な器具や装置を用いなくても実施可能な種目をメインとする。また安全で効果的な運動種目、強度および時間等を自らが判断し、適切な運動プログラムを作成・実施できるようになるために、運動実施時の身体諸機能の反応を自ら測定・評価する方法についても習得することを目標とする。

授業の方法

【動画視聴型（manaba 利用）】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP3 大学DP5

到達目標

- ①自らのライフスタイルをコントロールしていく上で重要となる健康の保持増進のため、その基礎となる身体の諸機能を高める方法の習得を目指す。
- ②運動を楽しみたいという欲求を高め、生涯にわたりスポーツを楽しく実践していくための方法の習得を目指す。

授業計画

第1日：ガイダンス、身体活動および運動の意義（佐古）

1. 講義1：日常生活における身体活動量および運動量のアセスメントおよび活動計画（健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023）
2. 実技1：ホームフィットネステストによる体力測定（1回目）

第2日：澤田

1. 講義2：生涯にわたる運動の発達
2. 実技2：①ピラティスエクササイズ（主に深層筋にアプローチする運動）②座位姿勢で行える低強度運動

第3日：小川

1. 講義3：運動を実現する筋肉の基本特性
2. 実技3：筋力向上のための自重を使ったトレーニングの実践

第4日：大沼

1. 講義4：日本における女子体育の黎明：日本女子大学の挑戦
2. 実技4：コーディネーショントレーニング（縄跳びを中心に）

第5日：杉山

1. 講義5：運動と身心の健康
2. 実技5：リラクゼーション、マインドフルネス、快適な身体活動の実践

第6日：まとめ（佐古）

1. 講義6：講義1で計画した日常生活における身体活動量および運動量の実施状況評価
2. 実技6：ホームフィットネステストによる体力測定（2回目）

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

指定しない

②使用教科書

指定しない

③参考書

これからの健康とスポーツの科学 第5版 安部孝・琉子友男編 講談社 2020 (テキスト科目身体運動論のテキスト)

④持参するもの 特になし

⑤成績評価

身体運動はその意義を理解するだけでなく、実践が伴わなければならない。授業に取り組む姿勢、目標達成度、技能、レポートについて、それぞれの最終成績の 60%、10%、10%、20%を目安として評価する。最終成績 60 点以上を合格とする。

⑥学生へのメッセージ

講義および実技のそれぞれの動画を視聴し、課題に対するレポートを提出すること。

⑦追試験

対象外科目

特記事項

身体運動演習の代わりに夏期スクーリングの身体運実習を選択することも可能です。また病気、けが、身体的ハンディキャップ等で実技の受講が難しい学生のために実技制限クラスを夏期スクーリングにおいて設けています。身体運動演習の実技課題の実施が困難な学生は、夏期スクーリングの実技制限クラスを授業してください。なお実技制限クラスを履修するためには、提出された健康診断書を基にして保健管理センターの判断等を含めて最終的な決定を行い、該当の学生には個別に連絡します。

身体運動論 (テキスト)

担当教員：杉山 哲司・澤田美砂子

佐古 隆之・小川 哲也

1年次～ 必修1単位

テキスト科目／2026年度

概要

近代文明はヒトに大きな恵みをもたらしたが、一方では運動不足をもたらし、健康や体力に多くの問題を投げかけている。また、平均寿命が長くなり、各年代における運動のあり方や方法も多様化している。身体運動論は健康や体力の維持・向上に必要な基礎的・応用的な知識を提供し、その知識を効果的な実践に結びつけることを学ぶ科目である。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP3 大学DP5

到達目標

生涯における運動のあり方を、運動生理学、心理学の理論から理解する。

学習の進め方

1. テキストの指定された章を読む。
2. リポート課題を確認し、関係箇所をテキストと参考文献で学習した後、リポートを作成し、課題、テキストや参考文献との整合性等を確認する。リポートを清書し、提出する。
3. リポート不合格の場合は添削文をよく読み、再提出する。
4. リポート合格後は科目修了試験に向けてテキストや参考文献を深く読む。

内容

[テキスト範囲]

1、2、4、5、7、10、11、12、14、15章

[内容]

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 1章 健康を推進するための生活スタイルとは | 7章 高い持久力は何によって決まるのか？ |
| 2章 運動習慣は生活習慣病を予防・改善し、寿命を延ばすことができるか？ | 10章 どのような運動をすると骨が強くなるか？ |
| 4章 肥満を改善するための方法 | 11章 加齢による筋萎縮に対する運動と栄養摂取の役割 |
| 5章 力強さや爆発的なパワーは何が違うのか？ | 12章 子どもの体力・運動能力を改善する方法とは |
| | 14章 動作の巧みさを科学する |
| | 15章 ストレスと運動 |

テキスト・参考書

①テキスト これからの健康とスポーツの科学 第5版 安部孝・琉子友男編 講談社 2020、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 『リポート課題集』参照。

成績評価

①リポート 全体を100%として、課題の理解40%、学生自身の学習効果40%、リポートの完成度20%の割合で評価する。

②科目修了試験 各回について、全4問のうち、第1問は共通問題（40点）として全員が解答する。第2問から第4問は選択問題（30点）として3問中2問に解答する。各回、計100点。それぞれ知識40%、理解30%、論理性30%の割合で評価する。

その他

基本はテキストにありますから、テキストをよく理解して科目修了試験に臨んでください。